

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100102		
法人名	(株)快GO TOKAI		
事業所名	グループホーム 住ま居る		
所在地	岐阜県多治見市笠原町2455-42		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191100102&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでも住ま居るで暮らせる」という観点から、ハード面では全館バリアフリー、オール電化となっており、重介護に対応できるようリフト浴が設置されている。またソフト面では、専従の看護師が主治医、薬剤師等の医療従事者と密に連携し、ターミナルケアを視野に入れ、日々の健康管理など質の高いケアがなされている。介護職員の研修体制も充実しており、ホームでの勉強会、外部での研修の機会を多く確保している。この事により、質の高いサービスが提供でき、利用者様、ご家族が安心して過ごせる様積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が安心して仕事の出来る環境をつくり、質の高い介護職員を育成している。レベルの高い人材確保は事業所運営の基本としている。利用者には理念に掲げた「満足度の高いサービスの提供」一人ひとりの個性を尊重しながら、生き甲斐のある暮らしに繋げている。家族の願いである重度化や終末期の対応は、専従看護師と、協力医が緊密に連携を取り、支援体制を築いている。利用者が日々穏やかに過ごせるよう、自立を支えて、笑顔と喜びのあるケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共有できるように、事務所に掲示し、出勤時に各自確認し業務に当たるように、指導している。	理念は、満足度の高い介護サービスの提供など、5項目を掲げている。理念を目の届く場所に掲示し、出勤時、業務中にも確認し共有している。職員は、地域に貢献できる役割を担い、水準の高い介護の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、地域の祭りへの参加、地域幼稚園等との定期的な交流を行っている。	地域の一員として、行事に参加したり、ふれあい広場や祭などに参加している。幼稚園との交流も定期的に行われている。道路向かいのコンビニエンスストアからの災害協力や、地域住民がホームに立ち寄り、遊びに来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護相談等を受け付け、適切な事業所、医療機関を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、関係者、市職員、包括支援センターの職員等地域にも参加を呼び掛け、意見を伺い事業所の質の向上に生かしている。	会議は、地域住民や民生委員、行政、地域包括支援センター、家族が参加し、3ヶ月毎に開催されている。事業報告、行事内容の説明のあと、意見交換が行われている。出席者から、行事の参加費用の負担の提案が出され、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の相談、意見交換等は密に出来ている。	管理者が、行政の福祉に対する、審議会委員など公的な役職を受け、市の担当者と意見交換を行っている。日頃から困難事例、空き情報など連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員のミーティング等でも話し合っている。玄関の施錠について施設環境上、入居者の安全確保が難しい状況がある為、家族の了解を得て施錠を行っている。	身体拘束ゼロのケアを実践している。外部研修の報告会や外部学習会で周知・徹底している。利用者の自由を奪うことのないケアに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、ホーム勉強会の開催を通じ全職員が理解している。又、管理職は注意を払い防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	虐待防止の徹底と同様、研修会への参加、ホーム勉強会を通じ把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に密に説明を行い、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関、リビングには、意見箱を設置し意見が出やすいようにしている。又運営推進会議、家族会を通じ意見を伺っている。	家族の訪問時、運営推進会議や家族会で、意見を聞いている。家族からは「行事日程を早く知りたい」との要望がある。意見・要望等は、速やかに改善して。	意見箱を活用する家族がいないため、毎月発行する「住ま居る新聞」に、意見の記述欄を設けるなどの工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、責任者会議、全体会議を開催し、職員の意見が反映されるように務めている。	代表者は、月例会議で、職員の気づきや思いが気軽に発言できる機会を設けている。「職員が安心して、仕事ができる環境づくり」を話し合っている。職員の発想や提案を、その都度、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との意思疎通を図り、風通しの良い職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、外部での研修の参加、毎月の勉強会を開催し職員のレベルアップ。質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への見学、イベント等への参加を通じネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホームの見学、ご家族、担当ケアマネからの情報収集を行い本人の嗜好、趣味等を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、不安点等を聴きながら、家族の思いを受け止め、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等を把握した上で、入所が本人、家族にとって望ましいか等、担当ケアマネ等法人外部とも連携し、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩と位置付け、職員の立場をわきまえた上で、よりよい関係づくりができる様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割、ホームの役割を把握し家族との関係が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のなじみの場所などに出向く事等は少ないが、ご家族以外の面会者については、ご家族と相談しながら行っている。	家族、親戚、知人や同僚の訪問が多く、職員は心地よく会話の出来る環境を提供している。入居前に利用していた商店や道の駅、資料館などに出掛け、馴染みの人に会う楽しみを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が共に生活しているという事を理解した上で、利用者同士がよりよい関係が築けるよう、職員が間に入り援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、在宅復帰をされた方に対しては居宅ケアマネと連携を図っている。また必要に応じ家族、本人の相談などに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関係者からの情報収集を行い入所前の暮らし方等の把握に努めている。また日々の言動、行動を観察し全体会議などを通じ情報の共有に努めている。	日常の会話や、行動を観察し、思いや意向を把握している。困難な場合は、家族から情報を得たり、利用開始時の資料から把握して共有し、一人ひとりのより良い暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握と同様、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL等のアセスメントを行い、有する力、心身状態の把握に努め、介護記録に記載し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族はもとより、主治医、看護師、介護職員がそれぞれの視点から意見を出し合い、介護計画の作成に関わっている。	全職員で、モニタリングを行い、日常的な個人記録の中から、利用者の状態、家族の希望を検討し、介護計画を作成している。また、看護師や主治医と話し合い、現状に即して、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など個別の介護記録に記載し共有出来ている。また申し送りノート等を活用し情報の共有に努めている。また日々のケア、介護計画に反されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	廃用性による機能低下のある方、疾患により身体機能の低下がある方が、医療保険で訪問マッサージを利用して機能の維持・向上を図っている。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と関わりが持てる様、定期的なボランティアの協力や、近隣の幼稚園との交流、地域の行事、他事業所との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医の往診が月に2回あり。その他に必要な応じ適切な対応を行っている。又入所前のかかりつけ医への受診等の希望があった場合は柔軟に対応している。	契約時に、かかりつけ医について、本人、家族に説明している。協力医をかかりつけ医に変更する利用者が多く、協力医による月2回の往診が有り、全員が診察を受け、通院受診は、家族と連携を取り、安心できる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師が日々健康管理をし必要に応じて介護職員へ対応の仕方など説明し適切に対処している。また介護職員からの情報提供も適切に行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際の対応、スムーズに対応できるよう、入院先の医療機関と連携、情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、重度化に関する指針など密に説明を行い同意を受けている。また本人、家族の方針を伺っている。	契約時に「重度化の対応指針、看取りに関する同意書」により、本人・家族に説明し、同意を得ている。職員の看護師と協力医との連携、職員、家族の協力など十分な体制を整え、終末期の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時に関する勉強会、地域消防署による研修を受講し急変時などに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署による避難訓練を実施。災害対策として、地域住民、地域企業への協力をお願いしている。	消防署の協力の下、年2回の火災訓練を実施し、避難場所、器具の使用、通報連携の確認などが行われ、地域企業、住民との協力体制も築いている。夜間を想定した訓練や、備蓄はホームで準備している。向かいのコンビニエンスストアとは、夜間帯での監視や通報などで、協力が得られる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の尊厳を守り、その人らしく過ごせるよう対応している。個室に職員が入室する際は、本人の許可を得るよう指導している。	個々の尊厳を損ねないように、言葉かけに配慮している。命令口調、幼児語などの気づきは、職員間で注意するなど、常に人生の先輩として敬い、細やかな支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう、利用者自身が選択できるような声かけを行っている。利用者専用の意見箱をリビングに設置してある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間等特に決まっていな い。レクリエーションの参加なども同様であり 本人が選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力していただき、外出着も用意して いただいている。また理美容に関しても、 なじみの店に通って見える方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、利用者専用の意見箱を設 置し意見を取り入れながら行っている。配膳 の準備など担当を決め行っている。	中庭のプランターで野菜を作り、食材として利 用している。地域住民や家族から野菜が届け られ、経験豊かな利用者から保存方法や調理 法などに会話が広がり、メニューが決まってい く。準備から片付けまで担当が決められ、一役 を担って、共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	食事量に関しては、摂取量を記録し把握して いる。また、食べやすい形状に調理する等 の工夫をしている。水分摂取に関してもいつ でも水分を摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後個々の能力に応じた口腔ケアを実施 し、口腔内が清潔に保てるように支援してい る。また必要時歯科の受診を支援している。		

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個別対応している。オムツ使用の方でも日中トイレで排泄できるよう援助している。	個々の排泄パターンを把握し、こまめにトイレへ誘導している。重度化によるオムツ使用者にも、トイレでの座位を促すことで、本人から「トイレでしたい」という意思表示が出来るようになり、ポータブルトイレでの排泄に変わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、記録に記載し看護師が把握している。便秘予防に十分な水分摂取、適度な運動の機会が確保できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、プライバシーの配慮はもちろん、入浴日ではなくても本人の希望があった時には入浴していただけるように取り組んでいる。	週3回、午後の時間帯に、入浴を支援しているが、利用者の希望には、柔軟に対応している。重度者用のリフトが設置され、また、個々に合った足浴、清拭なども行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、身体状況など考慮し心地よく安眠できるよう取り組んでいる。日中、夜間ともに入床に関しては利用者の意思を尊重しているが、生活のリズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個々の内服薬が把握できるよう各利用者記録におくすり手帳、説明書が保管されている。看護師が利用者の状態を把握し、主治医、薬剤師と密に連携し取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、ケアプランに上げ、本人とも話し合いながら取り組んでいる。楽しみについてはどんな事がやりたいか等、利用者の意見を取り入れて行っている。また地域ボランティアの協力も多くある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が多く持てるよう、天候のよい日は散歩に出かけたり、喫茶店に出かけたり、個人の買い物の支援、地域行事への参加、ご家族との外出の呼びかけなどを行っている。	天候の良い日は、近隣を散歩している。希望者には職員が同行して、喫茶店や買い物に出かけている。遠方の希望がある場合は、家族の協力を得て、外出できるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム住ま居る

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	運営推進会議でも「お金をもつ大切さ」を話し合い。本人の能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、家族に連絡が取れるよう支援している。なじみの方から手紙が届く事もあり、返事が送れるような支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常の整理整頓、清潔を心掛けている。また空調管理などのこまめに行い快適に過ごせるよう取り組んでいる。	建物は、高い天井で、開放感があり、ゆったり落ち着いた造りになっている、キッチン是对面式で、調理時の音や臭いが感じられる。居間には、テーブルや椅子、ソファが配置され、利用者は思いのまま寛いでいる。共用空間は、柔らかな照明や快適な空調管理で、心地良く過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が快適であるよう家具などにもこだわっている。また外にはウッドデッキが有り独りや、気のあった仲間とほっとできる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等を持ち込んでいる方も多い。本人が心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	見やすい表札に、家族から送られた手製の花を飾り、自分の部屋であることを確認できるようにしている。クローゼットの設置により、整理整頓しやすく、部屋を広く利用できる。使い慣れた整理タンスや鏡を持ち込んでもらい、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、利用者ができる限り安全な自立した生活が送れるよう工夫している。		